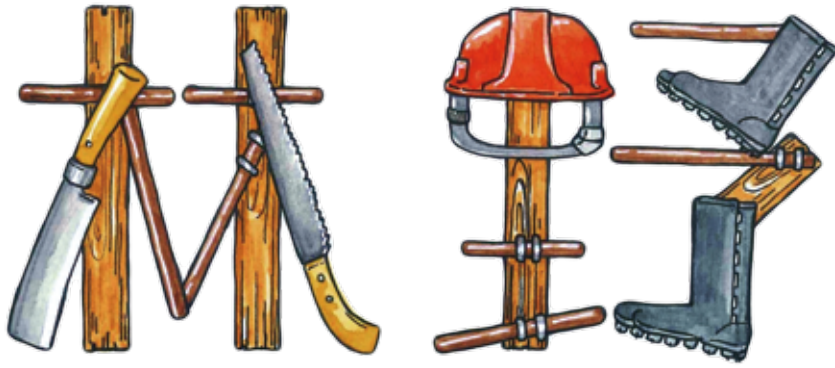




7

July
2017
No.124

人と森をつなぐ情報誌「林野」



特集

8月11日 国民の祝日「山の日」
～「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」～



「日本美しの森 お薦め国有林」のご紹介

～ 野反自然休養林（群馬県吾妻郡中之条町）～

天空の水面^{みなも}にかがやく森と花園～野反湖～

第2回は、関東森林管理局管内の国有林をご紹介します。同局管内では、15箇所のレストランの森が「日本美しの森 お薦め国有林」に選定されました。

今回ご紹介する野反自然休養林は、群馬県北西部、長野県との県境に位置し、2,000m級の山々に囲まれ、野反湖を中心に、森林と草原が一体となった自然景観を呈しています。シラベ・ダケカンバ等の亜高山帯の森林に抱かれ、抜けるような青空や燃えるような紅葉が湖面に映し出されます。春から秋にかけては、シラネアオイ・レンゲツツジ・ノゾリキスゲ（ゼンテイカ）等300種類を超える高山植物が湖畔を可憐に彩ります。（シラネアオイの保護、増殖のため地元中学生が平成5年から継続して活動しています。）

湖畔には町営のキャンプ場が整備されており、森林の中で遊んだあと、満天の星空を眺めつつ眠るのはいかがでしょうか。また、お花畑の散策や周辺の山々への登山など、宿泊でも日帰りでも楽しめます。

さらに、周辺には尻焼温泉や草津温泉など、多数の温泉がありますので、こちらにもぜひお立ち寄り下さい。



7

July
2017
No.124

Contents

- 02 「日本美しの森 お薦め国有林」のご紹介
- 03 特集 8月11日 国民の祝日「山の日」～「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」～
- 08 各地の森林から「森林官」の仕事
- 10 Topics 01 森林保険制度80年のあゆみ
- 12 Topics 02 国として初めてCLTパネル工法を採用した庁舎整備に着手
- 13 Topics 03 「ウッドデザイン賞2017」の応募締切迫る！
- 14 がんばる市町村 持続可能な森林経営の推進を目指して ～大分県日田市～
- 16 国有林野事業の取組 国有林の森林総合監理士（フォレストー）等による民有林支援の取組
- 18 Topics 04 2016年度の「林業遺産」に8件が選定されました！
- 19 みどりの女神が行く！

（表紙の説明）
那須岳（栃木県）



8月11日 国民の祝日

「山の日」

～「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」～

半月山から男体山を望む（提供：齋藤伸隆氏）



大山風景林



知床 ボンボロ沼



信濃町 癒しの森



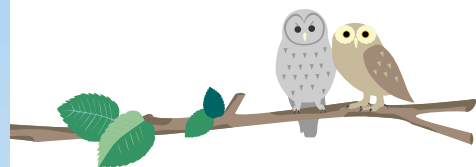
大倉山（提供：齋藤伸隆氏）



剣山



那須道路風景林



8月11日 国民の祝日 「山の日」



鶏頂山



ブナ・イヌブナ天然林ハイキング



第2回 「山の日」記念全国大会 in 那須 2017

日本は国土の約7割を変化に富んだ山地が占める「山の国」です。

日本人は古くから山を崇め、森の恵みを楽しみ、自然とともに生きてきました。

この美しく豊かな自然を守り、次世代へ引き継ぐことを銘記するため、平成26年に祝日法が改定され、国民の祝日「山の日」が制定、平成28年に施行されました。

施行後はいよいよ「山の日」を迎えた昨年8月11日(木・祝)に、国民の祝日「山の日」を記念して、第1回「山の日」記念全国大会が、長野県松本市上高地等で開催されました。

松本市上高地等で開催された記念式典、祝祭式典などに多くの方が参加され、大会は大いに盛り上がりしました。

今年も、昨年同様「山の日」の当日に栃木県那須町において第2回「山の日」記念全国大会が開催されます。

今大会の目標は、「とちぎらしさ」を実感できる参加・体験型の大会を開催し、「山の日」の意義である『山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する』ことへの理解を深

第1回「山の日」記念全国大会 in上高地



記念式典

平成28年8月10日（水）～11日（木・祝）に第1回「山の日」記念全国大会が長野県松本市上高地で開催されました。

上高地で開催された記念式典では、山への想いの発信や、子供たちによる未来への誓いが発表されるとともに、格式高くも質実な演出によって、厳かな「山」を表現した式典になりました。

記念式典のほかにも、松本市街において祝祭式典や、山岳観光の事例紹介などを行う国際フォーラムが開催されました。また、記念大会と同時に開催された「信州四方山祭り」では、木工体験などの体験型ブースが設置され、多くの来場者で賑わいました。

関連行事も含め8月10～11日の2日間にわたって開催された記念全国大会には、延べ1万7千人を超える方が参加し、山や森林の恵みを感じる機会となりました。



信州四方山祭り



国際フォーラム



秩父山系から富士山を望む



ニッコウキスゲ



谷川岳

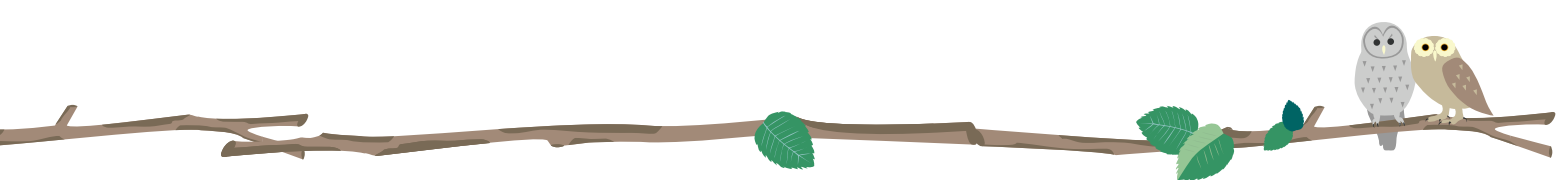
めていただくとともに、山の事故や自然災害への対応、美しく豊かな自然を守り、次の世代に引き継ぐことの大切さについて知っていただくこととしています。

記念大会のほか、春季から秋季（4月～11月）にかけて、栃木県内各地で自然体験や山での健康作り活動などのイベントが開催されます。

また、平成30年に第3回となる「山の日」記念全国大会が鳥取県大山で開催されることが決定しました。

これは、大山開山記念1300年祭と併せて開催されるもので、今年から、大山をはじめとする山の魅力が感じられるイベントが開催されます。

この機会にイベントへ参加して、山や森林の恵みを感じてみてはいかがでしょうか。



水源

(提供：齋藤伸隆氏)



シャクナゲ



木材生産



山村



魚梁瀬スギ



治山

我が国の森林は、山間部に多く分布しており、山地災害の防止、洪水の緩和等の役割を果たしているほか、貴重な動植物の生息・生育の場であったり、木材を生産するなど、多面的な機能を有しており、私たちの生活になくてはならないものとなっています。このような森林の役割は「山の恩恵」とも言えるものです。

このような森林の有する多面的な機能を持続的に発揮させていくためには、山村地域に人が生活し、日常的に森林の整備・管理を行うことが重要です。

この山村地域には、豊富な森林資源、水資源、美しい景観のほか、食文化をはじめとする伝統や文化、生活の知恵や技などの地域資源が数多く残されており、豊かな自然や伝統文化に触れる場、心身を癒やす場などとしての役割が期待されています。

国民の祝日「山の日」には、山の恩恵をもたらす森林、そしてそれを支えてきた山村で暮らす人々の営みにも思いを馳せつつ感謝してみませんか。





「山の日」関連イベント情報



8月11日の「山の日」に合わせて、全国各地で様々なイベントが開催されます！
ここでは各森林管理局等で開催されるイベントを一部ご紹介します！



地域	日程	行事名	具体的な内容	募集人数	主催者 〔 〕内は問い合わせ先
北海道	8月11日(祝)	北海道森林スポーツフェスタ2017 in おたる	森林マラソン、森林浴ウォーク、ノルディックウォーキング、ツリーイング、ポット苗づくり	700名	北海道森林スポーツフェスタ実行委員会 〔石狩地域森林ふれあい推進センター TEL：011-533-6741〕
秋田県	8月8日(火)	山の日記念 「秋田駒ヶ岳登山」 (仮称)	山の日を記念した 秋田駒ヶ岳登山	20名	東北森林管理局技術普及課 〔東北森林管理局技術普及課 TEL：018-836-2211〕
群馬県	8月11日(祝)	山の日記念 「21世紀の森まつり」	森のかけらストラップ作り、 ロケットリーフ、木工教室等	2,000名	山の日記念「21世紀の森まつり」 実行委員会(群馬県) 〔利根沼田森林管理署 TEL：0278-24-5535〕
福島県	8月5日(土)	親子 「子ども樹木博士」 チャレンジ！2017	福島市土湯温泉町の「きぼっ この森」で、「子ども樹木博士」 を実施	60名	福島民有新聞社、福島森林管理署 〔福島森林管理署 TEL：024-535-0121〕
東京都	8月7日(月)～ 8月13日(日)	クラフト体験	クラフト作品の作成 (小学生以下優先)	各日 30名	高尾森林ふれあい推進センター 〔高尾森林ふれあい推進センター TEL：050-3160-6040〕
長野県	4月29日(祝) ～ 11月12日(日)	木曽路&赤沢休養林 トレッキングパズル ラリー	木曽路と赤沢休養林の各ポイント で木製パズルのピースを集め ながら、森林を散策	1,000名	木曽森林ふれあい推進センター 〔木曽森林ふれあい推進センター TEL：0264-22-2122〕
福井県	8月11日(祝) (予定)	桃木峠の大杉観察会	桃木峠の大杉観察会、 クラフト体験等	30名	桃木峠の大杉保全協議会、大野市、 福井森林管理署 〔福井森林管理署 TEL：050-3160-6105〕
徳島県	8月11日(祝)	親子ハイク(仮称)	山の日を記念した剣山登山	親子 15組 (30名程度)	徳島県 〔徳島森林管理署 TEL：088-637-1230〕
高知県	7月29日(土)	工石山グリーンアド ベンチャー&クリー ンハイキング	清掃活動やグリーンアドベン チャーを楽しみながら登山	40名	嶺北森林管理署・県民の森工石山を楽し みながらよくする会・工石山青少年の家・ 高知市体験活動者指導者養成実行委員会 〔嶺北森林管理署 TEL：0887-76-2110〕
宮崎県	8月11日(祝)	山の日 森林セラピーウォー キング	森林セラピーロード猪八重溪谷 を森林セラピストと一緒に歩く	20名	NPO 法人ごんはる 〔宮崎南部森林管理署 TEL：0987-25-1115〕



各地の森林から

季節毎にお送りする「各地の森林から」。今回は日本の国土の約2割を占める全国の国有林を管理するために最前線で働く林野庁職員「森林官」の仕事について、その一部をご紹介します。

国有林の境界巡検（近畿中国森林管理局）

境界巡検^{けいかいじゅんけん}とは、国有林の範囲を明確にするために国有林の周囲に設置されている境界標（杭）を森林官が定期的に巡視・確認し、国有林への侵害がなく管理されていることを確認するための業務です。

境界巡検では、基本的に森林官が境界標を一つひとつ見回って確認し、境界をはっきり視認できるよう標柱にペンキやスプレーでマーキングします。また、損傷し修理や再設置が必要な境界標があるか確認し、必要に応じ再測量して境界を復元します。

この地道な作業を定期的に行うことにより、国有林が適切に管理されていることを確認しています。



GPSを利用した境界巡検



境界標の復元作業



境界標の測量



ペンキ塗布

伐採事業のために必要な収穫調査（関東森林管理局）



立木の太さ等を測定



森林の標準的な箇所調査を実施



極印



伐採木は極印で標示

収穫調査とは、伐採を計画している森林で、実際にどの程度の材積（木材としての量）が存在し、どの程度の量を伐採して販売、利用することが可能かを確認するために行う調査です。

収穫調査では、森林官が伐採の対象となる森林に入り、樹木の太さ、高さ、本数を測定するとともに伐採木を決め、その印として極印^{ごくいん}を押します。また、伐採後の集材に必要な路網が作設できるのか、それが難しい場合には架線による集材が可能かなど、森林の地形、土質、植生などを勘案して、搬出方法についても検討を行います。

収穫調査は、下草が繁茂した森林や傾斜の急な森林では労力がかかり、危険も伴いますが、計画に沿った木材生産を行うために必要な調査です。

事業実行の現場監督（四国森林管理局）

国有林では植栽、下刈、除伐、間伐などについて、林業事業体と契約し事業を行います。その際に、発注した業務が国有林を適切に管理経営するために必要な水準で行われているか、請負事業体を監督するのが監督業務です。

具体的には、契約で定めた期間内に必要な作業を行うために十分な計画を立てているか、作業に当たって必要な安全措置を講じているか、丁寧な現場作業が行われているかチェックし、必要に応じて効果的な事業となるよう指示を行います。

また、同じ地域の国有林で同時に複数の事業を行うことも多いため、その際には複数の請負事業体の間で安全上の情報共有を図ったり、林道等の通行やストックヤード等の使用にあたって、事業間の調整を行います。



伐採現場での出材量の確認



林業事業体への指導



事業現場での作業指示

森林教室などのふれあい活動（中部森林管理局）



間伐体験



自分たちで伐採した木の年輪を確認



フィールドでの森林教室



小学校での森林教室

国有林では、豊富な森林資源を活かして小学校など、子ども達の森林、環境に関する学びの場として、フィールドを提供しています。

子ども達に森や木のすばらしさを体感してもらうためには、怪我なく、楽しみながら体験してもらうことが重要です。そこで、植栽や下刈などの森林整備の体験の際には、その方法や、のこぎりや鉋などの道具の使い方を森林官が中心となって指導します。

このほか、要請があれば地元の小学校や保育園などに出張して、森林の役割や大切さ、木の素材の良さを伝えるための森林教室も行うことがあります。

森林保険制度80年のあゆみ

昭和12年に創設された森林保険制度は本年で80周年を迎えます。
森林とともに歩んできた森林保険制度についてご紹介いたします。

平成3年大分県における台風19号被災地を森林保険を活用し復旧



Q 森林保険はどのような保険ですか？



A 森林についての火災、気象災、噴火災による損害を総合的に補償する保険です。

自動車を購入した際、事故が起きるとは考えていなくとも、万が一の場合に備えて任意保険に加入する方は多いと思います。また、家を建てた際は火災や地震などに備えて火災保険に加入されるのではないのでしょうか。

森林はもとより、山に植えられている木一本一本は、水源かん養などの公益的機能を發揮していますが、同時に森林所有者にとつての貴重な財産でもあります。

森林は山火事に加えて、自然環境につきものの大雨や台風、大雪など常に災害の危機にさらされています。また、木の成長には長い年月がかかりますが、災害は一瞬にしてその財産を失わせてしまいます。そんなときに頼りになるのが森林保険です。

我が国の森林保険は、森林保険法に基づき国立研究開発法人森林研究・整備機構の森林保険センターが業務を担当し、火災、風害、水害、雪害、干害、凍害、潮害、噴火災の8つのタイプの災害に対応できる総合的な損害保険です。

近年、地球温暖化の影響により自然

災害が多発する傾向にあります。こうした中で幅広い災害に対応できる森林保険は、森林所有者自らが災害に備えることのできる唯一のセーフティネットです。

森林保険に加入していれば所有する森林が災害で損害を受けても再び造林するための費用を確保することができます。安心して林業を営むことができます。

Q 森林保険はいつ始まったのですか？



A 昭和12年（1937年）森林火災国営保険として創設され、今年で80周年を迎えます。

森林保険制度は、昭和12年に、林業経営の安定を目的として山火事による災害跡地の復旧を推進するため、林齢20年以下の人工林を保険の対象に、森林火災国営保険として創設されたのが始まりです。昭和27年には、林齢制限が撤廃され、人工林のすべてが保険の対象となりました。次いで昭和36年には、風害、水害、雪害、干害、凍害、潮害の6種の気象災が加えられ、名称も森林国営保険と改められました。さらに昭和53年には噴火災が加えられ、総合的な保険として制度の充実が図られてきました。

このように国が直接、森林国営保険を運営してきましたが、国の行財政改革に伴い、平成27年4月に主体を国が

ら国立研究開発法人森林総合研究所（現森林研究・整備機構）に移し、「森林保険」として新たにスタートしました。そして今年（平成29年）、森林保険制度は創設80年を迎えました。

これからも皆さまのお役に立つ森林保険として、迅速な保険金の支払、丁寧な対応に努めてまいります。また、契約者・被保険者へのサービス向上と保険運営の安定性確保の観点から、契約を継続しやすくするための継続割引の新設、社会のニーズや政策の方向性に応じたサービスを提供するための花粉症対策苗木割引の新設、最近の災害リスクをタイムリーに保険料率へ反映させるためのルール設定などの商品改定の検討を進めており、より良い森林保険の提供を目指しています。

相談・申込先はどこですか？

Q 災害が発生した時はどうすればいいですか？



A 最寄りの森林組合、森林組合連合会にご相談・お知らせ下さい。

森林保険は人の手によって造成された森林を対象としており、個人、企業、自治体など、どなたでもお申込みいただけます。また、契約面積や期間など、希望に沿ったスタイルでご契約いただけますので、まずは最寄りの森林組合

等にご相談ください。

契約地において災害が発生した場合は、お申込みをされた森林組合等にご連絡いただき、被保険者様の立会のもとで損害内容の確認を行ったうえで、必要書類を森林保険センターにご提出いただけます。ご提出いただいた内容を森林保険センターで審査のうえ、保険事故の認定、金額を確定し、保険金をお支払いいたします。

Q 保険金の支払事例を教えてください。



A 群馬県桐生市の事例をご紹介します。

平成26年4月15日から5月2日にか

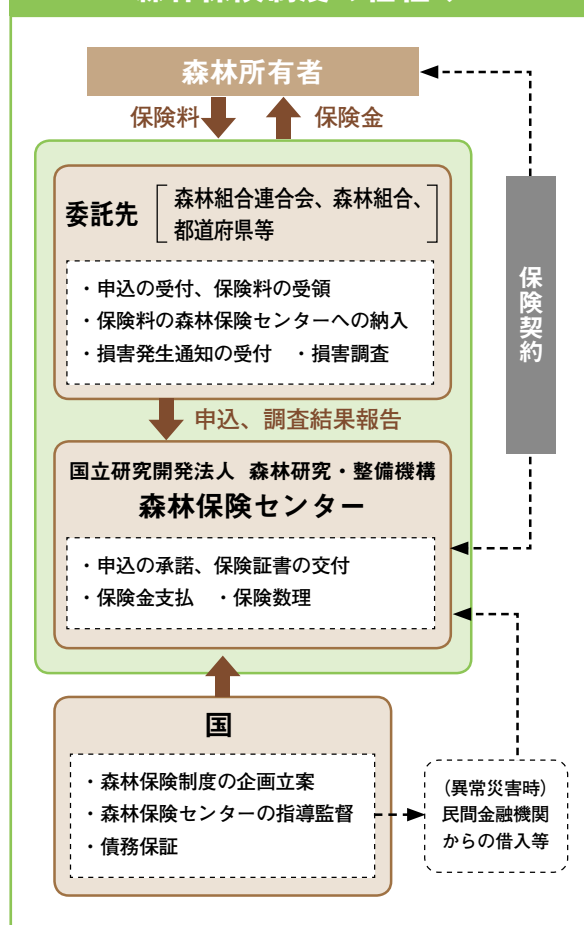
けて群馬県桐生市で山火事が発生しました。

隣県を含め263ヘクタールに及ぶ森林が焼失する大規模なもので、そのうち143ヘクタールが市有林でした。当該市有林の大半が水源かん養保安林であり、早期に復旧する必要があるました。

幸いにも当該森林は森林保険に加入しており、年内に約1億1千万円の保険金をお支払いし、迅速な復旧のためのお役に立つことができました。

今回の山火事を契機として、桐生市では森林保険の重要性が再認識され、市有林への森林保険のカバーを拡充しているとのことでした。

森林保険制度の仕組み



イメージキャラクター
マモルくん

森林とともに80年
森林保険

森林保険のお問合せ
お近くの森林組合、森林組合連合会、
または森林保険センターへ
〈国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林保険センター〉
☎ 044-382-3500



【損害の概要】

- ・ 樹種・損害時林齢：スギ、ヒノキ：22年生～112年生
- ・ 実損面積／契約面積：100.67ヘクタール／117.54ヘクタール
- ・ 支払保険金：112,225,785円
- ・ ヘクタール当たりの保険料／年：6,590円

国として初めてCLTパネル工法を採用した庁舎整備に着手



嶺北森林管理署庁舎



西都児湯森林管理署・左が庁舎棟（在来）、右が会議室棟（CLT）



会議室棟内部に CLT を一部あらし（○印は CLT）

利用期を迎えた我が国の豊富な森林資源の循環利用を促進するとともに、新たな木材需要の創出等を図ることによって「林業の成長産業化」を実現することが喫緊の政策的課題となっています。

木材需要の創出を図る上で、木造率が低く潜在的な需要が期待できる公共建築物での木材利用の促進は重要なテーマであり、「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」及び、同法に基づく基本方針により、国や地方公共団体による率先した取組が進められています。

また、近年、新たな木質部材に関する技術開発に進展が見られることを踏まえ、本年6月16日に同基本方針を変更し、CLT等の木質部材の利用促進を新たに規定しました。

このような動きを受け、今年度、林野庁が進める四国森林管理局の「^{れいほく}嶺北森林管理署」（高知県長岡郡本山町）及び九州森林管理局「^{さいとこゆ}西都児湯森林管理署」（宮崎県西都市）の庁舎整備（官庁営繕事業）では、国の庁舎整備として初めてCLTパネル工法を採用することとなりました。

CLTパネル工法は、CLT（Cross Laminated Timber、直交集成板）をパネルとして、床、壁、屋根に使用して建築物を建てる工法で、施工が容易で頑丈、熟練工への依存が少なく工期の縮減が可能、コンクリートより軽いため基礎工事の簡素化が可能といったメリットがあります。

建築物の木造化やコスト面の課題の解決に寄与する観点からも、今後もCLTや木質耐火部材等の新たな木質部材の普及に取り組んでまいります。

column

野中葵さんが「CLT広報大使」に任命されました

CLTは、比較的新しい木質部材で、その活用促進は、新たな木材需要を創出し、林業の成長産業化による地方の持続的な産業育成と雇用確保につながり、地方創生の実現に大いに寄与することが期待されています。

去る5月17日、政府一体となって進めているCLT活用促進の取組の一つとして、CLT活用促進に関する関係省庁連絡会議の議長である野上浩太郎内閣官房副長官から、「2017ミス日本みどりの女神」で農林水産省「みどりの広報大使」を務める野中葵さんに、各種イベントにおける普及啓発に御協力いただく「CLT広報大使」の委嘱状が交付されました。



「ウッドデザイン賞2017」 の応募締切迫る！

JAPAN WOOD DESIGN
AWARD 2017

「ウッドデザイン賞」は、木のある豊かな暮らしを普及するため、「木」に関するあらゆるモノ・コトを対象に、優れた製品・取組を表彰する制度で、平成27年度から始まりました。

同賞は、木を使って暮らしを豊かにする「ライフスタイルデザイン部門」、人を健やかにする「ハートフルデザイン部門」、社会を豊かにする「ソーシャルデザイン部門」の3つの表彰部門から構成され、審査を通過した作品に「ウッドデザイン賞」が授与されます。この中で、特に優れた作品には「最優秀賞」、「優秀賞」、「奨励賞」が授与されます。

昨年は、451点の応募作品から、251点が「ウッドデザイン賞」を受賞し、その中からトヨタ自動車株式会社の「コンセプトカー SETSUNA」が最優秀賞（農林水産大臣賞）を受賞しました。

第3回目となる今年度の「ウッドデザイン賞2017」の応募期間は、7月28日までとなっておりますので、ふるってご応募をお願いいたします。なお、応募にかかる費用は無料です。



受賞作品はコンセプトブックに掲載されます



受賞作品は、展示会への出展等により幅広くPRされます



昨年は、「エコプロ2016」（東京ビッグサイト）にて、受賞作品の展示および受賞者の表彰を行いました

応募方法

ウッドデザイン賞運営事務局ホームページ (<https://www.wooddesign.jp/>) より、応募者登録の上、**専用フォーム**より応募作品をエントリー



事務局ホームページ上で公開されている「応募要綱」を参照しながら、「作品の概要」、「作品のアピールポイント」など必要項目を入力。また、作品をアピールする「プレゼン資料」（ファイル形式:PDF）や、作品を説明する画像データ（ファイル形式:JPEG）等を添付。

応募期間

6月20日（火曜日）～7月28日（金曜日）

※締切まであとわずか！
応募をご検討中の方は、お早めに！

審査費用

無料

【審査委員長より】



審査委員長

赤池 学 氏

プロジェクトデザイナー
科学技術ジャーナリスト

ウッドデザイン賞2016の最優秀賞は、木のコンセプトカー「SETSUNA」でした。そこには、自動車のように木材と無縁だった製品領域に木材活用が広がって欲しいという審査委員の思いが込められています。例えば看護師や理学療法士、介護士が使用する車椅子や点滴台、医療カートなどの医療機器、コメディカル分野の製品にも木材活用が期待できます。今年度の「ウッドデザイン賞」では、こうした木材の新領域活用の応募を心待ちにしています。

そして、やはり地域材を活用した家づくり、まちづくりを扱った作品も、楽しみにしています。地元材を使った住宅供給に留まらず、機能や感性、新しいライフスタイルに配慮した木づかいの提案や街並み形成、森林ツーリズム、間伐体験などのソフトを組み合わせたビジネスモデルなどユニークな提案を期待しています。

【各種お問い合わせ先】 ウッドデザイン賞 応募事務局
お問い合わせ専用メールアドレス：info2017@wooddesign.jp

持続可能な森林経営の 推進を目指して

大分県日田市



日田市の森林



1. 日田市の 森林・林業・木材産業

日田市は北部九州のほぼ中央に位置し、周囲を阿蘇、くじゅう山系や英彦山系の山々に囲まれた山間のまちです。

江戸時代、幕府の直轄地「天領」となり、経済的な繁栄を遂げ、商人資本と幕

府の植林奨励策により、スギの植林が盛んに行われたことから、豊富な森林資源を有する地域となりました。

現在、市内には7つの原木市場があり、平日ほぼ毎日どこかで市が開かれています。市内外からの集荷能力は高く、年間取扱量は50万m³を超えます。また、70を超える製材工場は、それぞれが



林間ワサビ圃場

2. 市有林を活用した 取組について

得意とする専門分野に特化した木材を生産・加工しており、「日田市全体でひとつの大きな製材所」と例えられます。また、下駄や家具、クラフト等の木工業も盛んで、「川上」から「川下」まで、多様な関連産業が集積しているのも本市の特徴となっています。

市有林の面積は約1,600haで市内一円に分布しており、人工林率が79%と高く、大半はスギを中心とした経済林です。このうち10齢級以上の人工林は5割を超えており、適切な資源循環が行われていない森林等が散在するなど、市有林の維持管理に課題もあります。



市有林を活用した低コスト施業モデル林
(伐採から造林までの一貫作業と低密度植栽の実証)

こうした中、市有林を様々なテーマを持ったモデル林と位置づけ、スギ・ヒノキの木材生産の場だけでなく、様々な産物の生産地として活用することを目的に、平成25年度から、間伐した市有林を林間ワサビの圃場として整備し生産者に貸し出す事業に取り組み、現在、17の個人や事業者へ計3.35haを貸し出しています。

さらに、平成28年度からは、偏った樹種及び齢級構成の平準化に先導的に取り組み、植栽や保育作業など安定的な雇用の創出を促すことを目的として、年間約10haの主伐を5ヶ年計画で進め、低コスト施業や早生樹種のバイオマス利用などのモデル林として整備を進めています。

初年度は、5箇所モデル林の整備を行い、このうち、2箇所は低コスト施

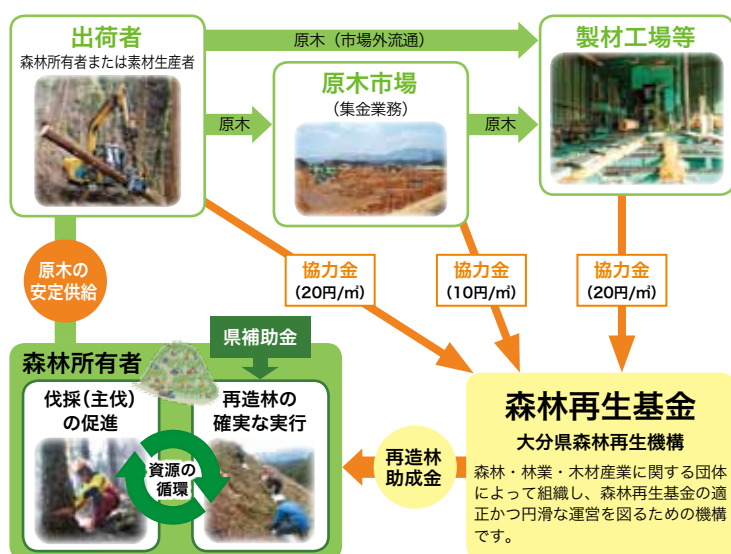


高性能林業機械による間伐

(別表) 森林整備事業への市独自の上乗せ助成

区 分		国	県	県 (上乘)	市	森林再生 基金	計
植 栽 (再造林)	低コスト (疎植)	51 %	17 %	15%	10%	7% 程度	100%
	広葉樹 2割を含む			5%	10%	5% 程度	88%
	広葉樹のみ			5%	15%		88%
除間伐	切 捨			5%	13%		86%
	搬 出			—	0～13%		68～81%
下刈(1～5年生)				—	27%		95%
シカネット				5%	22%		95%
路 網	森林作業道			—	8%		76%

※ 6 年生を対象とした下刈りの定額補助 100 千円/ha (市)



森林再生基金の仕組み

業をテーマとする、伐採から造林までの一貫作業と低密度植栽及び下刈り方法の実証の場としました。今後、生存率や樹高調査により検証を行っていくことにしています。

また、近年、国内で森林認証を取得する動きが活発化する中、大分県と本市を含む県内4市、7森林組合等で構成する大分森林認証協議会において、今年3月に県営林や市有林等の県内約2万haの森林でSGEC認証を取得しました。

今後も市有林をモデル林として活用し、その成果が私有林の森林づくりに

つながるよう取り組んでいきたいと思っています。

3. 森林整備事業への 独自の上乗せ助成について

健全な森林づくりをすすめ、森林の有する公益的機能の維持増進を図るため、国、県の森林整備事業等による再造林や除間伐、路網整備等を対象に市の補助金を上乘せし、森林所有者の負担軽減を図っています（別表）。

特に、伐採後の再造林についての支援を手厚くして主伐・再造林を推進し

ており、大分県森林再生機構が積み立てた森林再生基金による助成と併せて、標準的な事業地であれば、シカ害対策のネット設置や下刈りを行っても所有者の負担はごくわずかとなる支援内容となっています。

これらの支援策により、平成28年度は再造林が160ha、間伐が585ha実施されるなど、私有林において公益的機能の発揮に向けた森林整備が進みました。

市では、地域の豊富な森林資源から得られる利益を最大化するとともに適正に配分し、山元へ還元することで林業地「日田」の更なる発展を目指し、大径材の利用促進や再造林の低コスト化、家具など高付加価値商品への活用などに取り組むこととしています。

今後、地元の林業・木材産業関係者と一緒に、「林業・木材産業の集積地『日田』における木材の総合利用の推進」の実現を目指していきます。

林業振興課 Facebook 報発信をしています！



今後も地域の林業・木材産業関係者と一緒に、「林業・木材産業の集積地『日田』における木材の総合利用の推進」の実現を目指していきます。

少子高齢化等により労働人口の減少が予想される中、本市においても、林業の担い手の確保・育成は重要な課題となっています。

そのため、林業退職者共済や中小企業退職者共済の掛け金への助成（掛け金の3分の1以内）などによる福利厚生への充実や、林業への就業を目指す1年間の研修制度「おおいた林業アカデミー」の受講者に対する交通費の助成（1,000円/日）といった市独自の支援により、林業の担い手確保に努めています。

5. おわりに

※この度の豪雨により被災された方々に対して、心より深くお見舞い申し上げます
1日も早い復旧・復興に向け、林野庁としても全力で取り組んでまいります。

日田市林業振興課 Facebook
でも情報発信をしています！



国有林の森林総合監理士（フォレスター）等による 民有林支援の取組

東北森林管理局
秋田森林管理署

雄物川流域 フォレスターチーム による支援活動



平成23年4月の森林法改正により、地域の森林の「マスタープラン」である市町村森林整備計画の作成及び実施における市町村の役割が一層重要になったことを受け、秋田県と東北森林管理局は、民有林と国有林の森林総合監理士（フォレスター）等が相互に連携し、市町村等を技術面から支援するため、平成25年7月に「秋田県フォレスター協議会」を設置しました。

協議会では、秋田県内の3つの流域ごとにフォレスターチームを編成して、市町村森林整備計画の作成等に向けた具体的な支援活動に取り組むこととし、秋田森林管理署では雄物川流域フォレスターチームとして取組に参画しています。

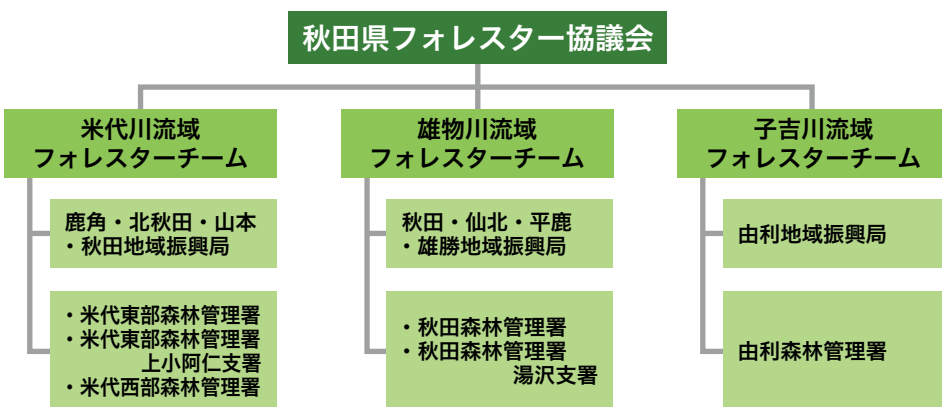


図1 秋田県フォレスター協議会組織図

管内概要

秋田森林管理署は、秋田県中央部に位置する雄物川流域北部3市1町の国有林（約11万2千ha）を管理しています。

雄物川流域の国有林は、秋田スギの一大産地となっているほか、上流部にはブナを主とする広葉樹林が自然のままの姿で数多く残されており、原生的な自然環境を維持するため森林生態系保護地域等に設定されているなど、自然環境豊かな地域です。

さらに、十和田八幡平国立公園、抱返り溪谷、太平山県立自然公園といった優れた景観に恵まれた森林が多く、玉川温泉や乳頭温泉郷といった観光資源も豊富で多くの人々が訪れています。



秋田森林管理署管内図

署の基礎データ

所在地	秋田県秋田市河辺和田字和田 156-3
区域面積	303,434ha
うち森林面積	211,557ha
国有林	111,538ha（国有林率 52.7%）
管轄区の関係市町村	3市1町 秋田市、大仙市、仙北市、美郷町

1 市町村森林整備計画の策定支援

当署管内の雄物川流域については、平成26年度が市町村森林整備計画の策定年度であったことから、平成26年2月に雄物川流域フォレストスターチームが市町村の林務担当者を対象に市町村森林整備計画の作成に向けた研修会を実施するとともに、雄物川流域の森林・林業・木材産業関係者を対象に、市町村森林整備計画の内容について改善すべき事項の提案、現状及び課題を把握するためのアンケート等を実施しました。

さらに、市町村森林整備計画の作成に関する先進事例の紹介を交えた意見交換を実施し、森林施業プランナーの協力を得て、各市町村の計画の策定推進体制の整備を行い、まずは市町村森林整備計画の概要版を作成しました。

その上で、各市町村の地域性を打ち出すための検討を重ねその議論等を踏まえ、更に地域の意見を取り込み、全市町村で基本方針等に地域性を打ち出した地域密着型の市町村森林整備計画の策定支援を行いました。

2 市町村森林整備計画の実行監理支援

市町村森林整備計画策定後の実行監理支援については、実施年度ごとに重点支援事項を①計画内容の確認、②実行監理の推進、③計画実行状況評価、④次期計画作成準備として定め、市町

村の林務担当者を対象に研修会等を開催しスキルアップに繋がる取組を行っています。

研修会は、伐採及び伐採後の造林計画に係る現地調査（伐採届出制度）、広葉樹の樹種判定、天然更新完了現地調査、森林経営計画の作成・認定（現地路網等確認）などの内容で年2回程度開催するほか、フォレストスターチームが直接各市町村へ伺い、森林整備計画の一斉変更内容について説明等を行っています。【写真1〜3】

今後、秋田県フォレストスター協議会及び雄物川流域フォレストスターチームの活動に積極的に参加し、地域課題の解決、林業の成長産業化に向けて取り組んでまいります。



1 森林経営計画等研修



2 天然更新完了調査研修



3 森林作業道等現地研修



4 採材・造材等研修

秋田県林業

トップランナー養成研修

（秋田林業大学校）への

支援・協力



当署では、平成26年9月に秋田県と東北森林管理局が締結した「秋田を元気にする緑の覚書」に基づき、平成27年度から秋田県が開講した秋田林業大学校に対して、フィールド提供や講師として森林総合監理士等の派遣を積極的にに行い、林業技術者の育成支援に協力しています。

現地実習では、生産事業請負現場を主体に、高性能林業機械による間伐作業現場の体験、採材とチェーンソーによる造材の実践、スギ複層林地の見学などを実施しました。また、他署等では、海岸林の施業や天然林の施業につ

いて、研修を行っています。【写真4】

講義等については、①森林・林業・木材産業の現状と課題、②国有林の管理経営について（森林管理署等の仕事）、③座談会形式で研修生との意見交換を行いました。研修生から、民有林と国有林の仕事の相違点、日本の林業の未来、林業の仕事のやりがいなど、活発な質問があり、林業・木材産業にこれから従事する若者の意気込みが強く感じられたところです。

林業従事者の高齢化が進む中で、若い人材を育成することは急務であり、その若者が地域の林業を牽引するリーダーへと成長していくためには、オール秋田・オールジャパンで支援していくことが重要と考えていることから、今後ともこれらの取組への支援・協力を継続してまいります。

2016年度の「林業遺産」に8件が選定されました！

「林業遺産」は、日本森林学会によって平成25年度から開始された、日本各地の林業発展の歴史を将来にわたって記憶・記録していくための試みです。

4年目となった昨年度は、全国から14件の応募があり、その内の8件が「林業遺産」として選定され、登録された林業遺産は全23件に達しました。今回新たに選定された林業遺産には国有林に関する資料や施設なども多く含まれています。

日本森林学会では、今年度以降も選定事業を継続していくこととし、各地からの積極的な応募推薦を受け付けています。

情報誌「林野」でも、引き続き定期的に各遺産についてご紹介してまいります。

「林業遺産」についての詳細情報は、日本森林学会のホームページをご参照ください。

<https://www.forestry.jp/activity/forestrylegacy/>



小石原の行者杉



屋久島の林業集落跡及び森林軌道跡



吉野林業（追加選定）



初代保護林 白髪山天然ヒノキ
林木遺伝資源保存林



蒸気機関車「雨宮 21号」と
武利意・上丸瀬布森林鉄道遺構群



足尾における治山事業による緑の復元



木曾式伐木運材図会



伊豆半島の森林史に関する資料

1	伊豆半島の森林史に関する資料	昭和30年代	静岡県伊豆市牧之郷	400年にわたる伊豆地方の森林に関する制度や政策の歴史をまとめた概説およびその収集史料。
2	小石原の行者杉	昭和63年	福岡県朝倉郡東峰村	英彦山での峰入修行の際に小石原の地に修験者が奉納植栽したスギの巨木群。
3	屋久島の林業集落跡及び森林軌道跡	大正後期	鹿児島県熊毛郡屋久島町	島内の林業生産の拠点となった林業集落跡地や現在も一部活用されている森林軌道群。
4	蒸気機関車「雨宮21号」と武利意・上丸瀬布森林鉄道遺構群	昭和3年	北海道紋別郡遠軽町丸瀬布	武利意森林鉄道の軌道敷を利用して定期的に運行する、国内で唯一動態保存された森林鉄道蒸気機関車「雨宮21号」。
5	初代保護林 白髪山天然ヒノキ林木遺伝資源保存林	大正4年	高知県長岡郡本山町	大正4年に発足した保護林制度に基づき学術参考保護林に指定された天然ヒノキ林。
6	木曾式伐木運材図会	明治時代前期（推定）	長野県長野市	江戸時代後期頃の木曾地方や飛騨地方で行われていた伐木・運材の技術について、美麗な絵図と詞書で解説する絵巻物。
7	足尾における治山事業による緑の復元	明治初期	栃木県日光市足尾町赤倉ほか	足尾銅山周辺の荒廃した森林を、長年にわたる治山事業により回復させた。
8	吉野林業（追加選定）	昭和14年	搬出関連: 奈良県吉野郡吉野町橋屋、丹治、飯貝および上市地区 建造物: 奈良県吉野郡吉野町上市地区	吉野材の集散基地を形成し、地位を築き上げた貯木場とそのシンボルである洋風建築事務所。

みどりの 女神が行く!

の なか あおい
野中 葵

福島県生まれ、
千葉県育ち。
趣味は音楽鑑賞と
お散歩



— CLTが使われたスタジアムを
体感してきました

みどりの女神野中葵です。

5月17日に『CLT広報大使』に任命していただきました。

CLTを使うと、今まで木材が使われてこなかった中高層のビルやマンションも、木で建てるのができるようになります。CLTは新しい需要を生み出す国産材の期待の星です。

日本でCLTを活用した建築物が増える事で、間伐や森林の手入れも進み、地方で仕事をする人も増えていくといいですね!私もCLTのことを皆さんに知っていただけるように、お手伝いをしたいと思います!

実際にCLTを使った施設の実例として、新豊洲Brilliaランニングスタジアムに行ってきました。この施設にはランニングレーンの屋根にカラマツの集成材、施設内の義足調整室の壁・天井にはヒノキとスギを使用したCLTが使われています。

館内は特訓する!というよりも、リラックスして身体を動かさせて、新しいなと思えました。のびのびと記録が狙えそうです!

— 木のある暮らしを各地でPR!

6月7日から9日にかけて開催されたスマートファクトリーJAPAN 2017で、私はライブ・ドリアドによるパネルディスカッションやライブ演奏において、「木糸」で作られたドレスを着用して出演しました。

私達が普段着ている衣類はほとんどが輸入ですが、このドレスは国産の、しかも森林資源で作り上げようというプロジェクトによって生み出されたものです。間伐材から和紙をすき、そこから特殊な技術で繊維質をとりだして、木の糸にし、布に織り、仕上げも天然の藍染めにした、こだわりの逸品!実際に着用してみると、肌触りがとても優しくて着やすく、森に抱かれたような気持ちになります。「木を素材とした糸でお洋服が出来るなんて!」と、私の周りの方もとても驚いていました。

CLTや木糸など、木の活用は技術の進歩によりいろいろ考えられると思います。生活や衣服など、身近に「みどり」を感じられる世の中に進んでいってほしいと思います。

6月24日には岡山県で開催された、おかやま木材フェスティバルに参加しました。岡山県はヒノキの素材生産量が日本一ということで、ところ狭しと並べられたヒノキアイテムにより会場中がヒノキの香りで包まれていました。

子ども達が木育コーナーや木の玉プールで、楽しそうに笑顔で遊んでいる姿に、周囲で見ている大人も笑顔になります。子どもたちから身近な木々やみどりに親しみを持ってもらうことで、木のある暮らしを次の世代へ送り届けていけると思います。

「木糸」で作られた
ドレス



(撮影: Maria Golomidova)



おかやま木材フェスティバル
(上)とスマートファクトリー
JAPAN2017 (右)に出演し
ました

8/11

Mountain Day

8月11日は
山の日です

林野庁 <http://www.rinya.maff.go.jp/>

感じよう、山の恵み、森の恵み

